

武州みたけ

第五十一号

「流鏑馬祭」

御嶽神社の流鏑馬は、黄昏時に行われる。祭典を終えて、斎場まで向かう行事諸役たちの後ろ姿を捉えた。

この後、払い落とされた白木の的をいただき、焼き魚をのせて食べると、一年間無病息災でいられるとされている。私も、毎年その恩恵に与っている。

(写真・文 鶴巻育子)

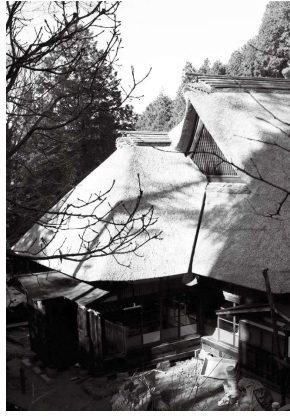
神社祭時記

【四月・五月】

枕べに ことしの春は 立ちにけり

日 野 草 城

「朝ふと目覚めると春の訪れに気がついた。」
里から登ってきた鶯の囀りが山中に響きだすころ、それは講中・崇敬者の春参りで賑わう時季と重なる。里よりはるかに遅い桜や樹々の芽吹きも参拝者の目を和ませる。御岳山の春は講中の参拝で気がつくのだ。都有形文化財の馬場家御師住宅も、一年かけた修復工事を終え、講中を清々しく出迎えている。



登山者で賑わったゴールデンウィークが空けた五月七日の朝、神社に山中の神主が集まりだす。神社最大の祭儀「日の出祭」の準備のためだ。拝殿の整備は元より御旅所への神輿や威儀物、神輿警護の鎧等々の運搬や整備など、すべての準備が終わるのは日の傾く夕方である。

第七十二回奉納剣道大会

(四月二十九日)

参加チーム数

四十六

優勝

青梅錬心館

準優勝

福生市剣道連盟

三位

羽村剣道玉心会

多摩市剣道連盟



時刻は八時を迎える。ドーン、ドーンと太鼓の音が山肌を震わせる。「宵宮」が斎行された合図だ。厳肅な祭典は進み、やがて神主たちの「オー」という声が途切れることなく発せられる。綱垣という大きな白い布の幕に守られながら、本殿より御神霊が宮司と共に御旅所へと向かう。その神幸は、雅楽の調べと、ぼんやりとした影灯籠の柔らかな光に包まれてとても幻想的であった。

翌五月八日、始発のケーブルカーは神輿連、神輿の警護をする鎧武者、威儀物を運ぶ白丁など多勢の崇敬者を乗せて

やって来た。

昨晚遅くより降り出した雨は、朝を迎えても止まず、仕方なく渡御の規模は縮小せざるを得なかったが、渡御は山間に響く法螺貝の音を合図に、ケーブルカー御岳山駅前の広場を出発した。神輿連により、標高差百メートル、三百段続く階段も難なく無事に神社本殿に還ることが出来た。

そして午後は、大祭を祝福する宴の聲が、色々な宿坊や売店から聞こえていた。

【六月・七月】

ほろほろと 山吹散るか 滝の音

松 尾 芭 蕉

「山並みに美しい彩りを添えている山吹の花たちが、滝の音に流されるように落ちていく。」

六月三十日の夕方に夏越しの祓「大祓式」が執行された。宝物殿前に建てられたテントには、神職たちによって作られた、直径二メートル程の茅の輪と祭壇が設置され、祭壇の上には祓いの淨具【桃の木・麻・爺婆（春蘭）】、茅で作った菰、小幣、それに罪穢れを移した沢山の、人形（依り代）が置かれている。

三十名ほどの神主が大祓詞を三回唱える間に行事役は、人形を淨具で叩き祓い清め、菰で包み、その菰をきつく縛り、船の形に仕上げ、中心に帆のように御幣

が立てられる。この行事がすんだ後、斎主を先頭に神職が続ぎ、茅の輪を三回くぐって大祓式は終了。その後この行事を見守ってきた参拝者たちも輪をくぐり大祓の札を授かる。テントの脇には犬用の茅の輪が用意され、愛犬をくぐらせる姿も見られた。

人形を乗せた船は、翌日七代の滝より流された。



この時期は禊行も行われる。六月二十四日、七月十七日に「滝行体験講座」が開催された。日帰りの滝行体験を中心に組まれた講座で、日頃ストレスと闘う多くの方が参加した。神社から四十分ほどの山中に姿を現す禊の滝「綾広の滝」は落差約十メートルあり、大岩の上から流れ落ちる。光が差し込むと周囲の緑が一層と映え、滝の水しぶきがキラキラと輝く様は、神聖さを増し、この山が神域

であることを一層と我が身に刻む。水不足のためか水勢は強くないが、その冷たさは緩んだ心を引き締めるのに十分である。滝を浴びる毎に一層と強くなる参加者たちの声が、それを如実に表しているようだった。この講座は、九月二十四日にも開催された。

【八月・九月】

涼風の 曲がりくねって 来たりけり

小林 一 茶

「参道を歩いてみると、滝らかの風だろうか、涼風が参道に沿って頬を撫でる。」

夏休みを利用して集落に住む女の子を対象に「浦安の舞講習会」を開催した。

涼しげな鈴の音が境内に響き、酷暑を和らげる。講習を受けた子供達は、夜神楽や夏の新神楽で経験を積み、大祭で舞を奉奏することとなる。

今夏、御師（神職）として神社に奉仕する許可を得るための伝統行事「伝法法（継）」が行われた。御岳山の長男として生まれた者は、十代後半になると否応なしにこの行事を受けることになる。

伝法は、一週間神社に籠もり、朝夕は禊ぎ、日中は作法と祭式を学ぶ。この行事の最初に火鑽具で神火を熾し、その火で毎日粥を炊く。食事はその粥と梅干、味噌汁のみである。育ち盛りの男子たちには滝行や作法より、粥だけの食事の方

が辛いらしい。

今回は、高橋朋也君・鈴木雄己君・片柳樂至君の三名が受けた。前途ある青年に大きなエールを送りたい。



七月二十一日～九月六日 神楽殿

「想像された狼たち展」開催

七名の若手作家がそれぞれのイメージ、それぞれの技法で表現したオオカミ像が展示された。見学された人は、作品への感心にとどまらず、オオカミについて、またオオカミ信仰についても興味が広がったようだ。現代における日本狼の信仰の一端が垣間見えた。



秋虫の声も小さくなった九月二十九日

夕刻、「流鏑馬祭」が執行された。当社の流鏑馬祭は神事の意味合いが強く、馬で矢を番えることはない。弓を持った行事役は、的ではなく、人々を苦しめる邪鬼を打つ。矢を番え夜空に向かって放つと「魔、射たり」「射たり、おー」の声が夜空を穿つ。その後、「こっば」と呼ばれるご神木で奉製された薄い木片が配られる。この板に焼き魚を乗せて食べると厄払いになり、健康に過ごせると伝わっている。

この日、山上集落では、尾頭つきの魚をこんがり焼いて木片にのせて食べるのが習わしだ。各戸から漂う魚が焼ける香りを楽しみながら、九月最後の祭典を終えた。



最後に、この半年を無事に過ごせたことを御嶽大神の御神威に感謝し、日の出祭世話人を始め、各種祭典行事にご協力・ご協賛下さいました崇敬者の皆様、各所関係機関の皆様に厚く御礼申し上げます。

御岳山の行事

平成三十年

一月	一日 元旦祭
	三日 太占祭
二月	三日 大口真神社祭
	三日 節分祭
三月	初午 稲荷社祭
	八日 春季大祭（祈年祭）
四月	二十二日 奉納俳句奉告祭
	下旬 産安社祭
五月	二十九日 奉納剣道大会・介山祭
	七日 日の出祭（宵宮）
	八日 日の出祭（神輿渡御）
	十五日 男具那社祭
六月	十七日 大口真神社祭
	二十四日 神楽と雅楽の一般公開
	二十四日 滝行体験講座
七月	三十日 夏越大祓
	十四日 レンゲシヨウマまつり（九月九日）
	十四日 新神楽
九月	二十二日 滝行体験講座
	一日 カンタンを聴く会
	八日 新神楽
	二十九日 大口真神社祭
	二十九日 流鏑馬祭
十月	二十四日 一日修行体験講座
	十五日 体育の日 神楽と雅楽の一般公開
	十三日 天空もみじまつり（十一月二十三日）
十一月	八日 秋季大祭（新嘗祭）
	二十三日 末社祭
十二月	九日 みたけ山トレイルラン
	二十三日 天長祭
	三十一日 大祓
六月～十一月	第四日曜日 夜神楽
毎月	八日 月次祭
毎日	日供祭

●●講中を訪ねて●●

青梅市 中郷御嶽講中 元講元 新海博司

中郷御嶽講の中郷は、上長淵字中郷を冠として名付けられました。現在講員は、土方講元以下三十一名、ほとんど世代交代で年月の長さを感じています。

講の創立は戦後も間もない時、すでに七十三年経ち、毎年五月、昇殿参拝のち静山荘で親睦の宴会で腹一杯ご馳走になっています。

平成三十年五月二十日、御嶽神社境内の一部に石畳を奉納し、念願の上長淵中郷御嶽講の石碑を境内に建立しました。土方講元始め、世話人、講員各位の御浄財を投じていただきました。参道にある講の奉納碑を見るにつけ、いつか中郷御嶽講も、と思っていました。現在参道に

は碑の建立する場所はなく、橋本御師のご尽力により境内に建立することが出来ました。五月二十日、記念碑の前で参加者全員で写真撮影した後、昇殿参拝で玉串を献呈し、無事参拝することが出来ました。途中駒鳥売店でビールで軽く喉をうるおし、静山荘の祝宴会場へ。今回は三人の綺麗どころがいて、お酒のピッチもあがり、カラオケ・踊りと大いに盛り上がりました。毎年正月、橋本御師から、大口真神の護符、家内安全のお札が講元宅へ届けられ、世話人から講員宅へ配布されます。今年も火災・盗難から我が家を守ってくれることを願って一句。

玄関に大口真神年新た



写真下：平成30年5月20日奉納
神符授与所前 石畳と奉納碑



主幹宮司 橋本 義明
所在地 東京都青梅市
講員数 約三十一名

敬神奉賛員募集のご案内

当社では、敬神奉賛員を募集しております。奉賛員には例祭、祭典、行事のご案内のほか、新年に向けての御神札など各種の特典が受けられます。左記の趣旨にご賛同いただき、ご入会下さいませようご案内申し上げます。

また奉賛員の皆様におかれましては、お知り合いの方にお声掛けいただけますと幸いです。宜しくお願い申し上げます。

【趣旨】

敬神奉賛員は、御嶽大神の御神徳を敬い、平穩無事に暮らせませう、皆様の心の拠りどころとして、また武蔵御嶽神社の更なる護持発展を目的に創設いたしました。

奉賛員の皆様方には、ご健康とご多幸を御嶽大神にお祈りし、当社の各祭典・行事等のご案内をする他、様々な特典が用意されております。

御嶽大神のご加護のもと、皆様がお豊かに楽しくすごせますよう、心より祈念致しております。

賛助費 五〇〇〇円

※ 詳しくは、社務所までご連絡下さい。

平成三十年
節分祭
年男 年女 御芳名

(敬称略 順不同)

奉賛会長 村野弘一
自由民主党東京都二十五選挙区支部
井上信治
東京都議会議員 森村たかゆき
青梅市議会議員 小山進
青梅市議会議員 鴨居孝泰
奥多摩町長 河村文夫
青梅警察署
東京消防庁 青梅消防署
青梅消防署 日向和田出張所
奥多摩消防署
東日本旅客鉄道株式会社 青梅駅
東日本旅客鉄道株式会社 河辺駅
京王電鉄株式会社
西東京バス株式会社
西東京バス株式会社 青梅営業所
西東京バス株式会社
五日市営業所
西東京バス株式会社
五日市営業所 水川車庫
西多摩農業協同組合
西東京農業協同組合
代表理事組合長 野崎啓太郎
西東京農業協同組合 二俣尾支店
公益財団法人 青梅法人会
青梅市観光協会
御岳登山鉄道株式会社
株式会社サンミュージックプロダクション
御岳健康大使 福島和可菜
青梅市消防懇話会
青梅防火管理者研究会
佐久間建設株式会社
関塚泰久
杉本洋

株式会社 丸井紙店
大御座内 鶴馬組屋 横田登
仲田美治
株式会社 鈴木美術漆工芸
代表取締役 鈴木宗行
株式会社 オフィスバンク
代表取締役 森村泰明
石丸商工 有限会社
有限会社 司防雷
本田三郎
高橋 春雄
森井 唯雄
磯貝 里美
磯貝 有希
増子 明美
有限会社 英社寺建築
海老澤 正美
株式会社 毎日広告社
多摩武蔵野支社
川合 恒夫
土屋 商店
有藤 幸子
有限会社 田中伴作商店
株式会社 大塚商会 福生支店
瀬田 美咲
福島 舞
五十嵐 浩昭
青木 秀雄
山本 英幸
青木 一三
戸井田 土木 戸井田 浩一
福田 弘
平原 佳
平原 武

炭島 I K E D A
平原 増由
浜竹 建築 齊藤 康人
有限会社 師岡建材
有限会社 新島自動車整備工場
ヤマト運輸株式会社
弘美堂
原島 昭和
清水土木建設株式会社
杉浦 建設
大久保 雄二
一般社団法人 奥多摩観光協会
手打ちそば 鳩美 加藤 則幸
山鳩 原島 俊二
有限会社 ストアー さかもと
師岡 智
天野 屋
有限会社 獅子口屋 木宮 勝美
(株) 奥多摩フィッシングセンター
御岳美術館
横田 貴光
戸上 和三
手打ちそば ぎり山 桐山 邦彦
社会福祉法人 武尊会
ぎん鈴旅館 齊藤 倉生
渡辺設備工業所 渡辺 勇
武田 商店 武田 啓一
モロオカ洋服店 師岡 勉
東峯園 王城 俊雄
新井写真店 新井 満
セブンイレブン 青梅御岳店
駅前山小屋エーヤード 柴田 大吾
玉川 屋
小峰 敏明
溪竜 奥富 誠悟
清水 征仁
吉川製菓株式会社
市川 大龍

井上 商店
福島 謙治
魚石 商店
中村タイヤサービス 有限会社
原嶋 正太郎
陶房 おきらく 清水 勝男
高野 商店
小澤酒造株式会社 小澤 順一郎
有限会社 横手商店 横手 伸一郎
有限会社 煉瓦堂 赤とんぼ
株式会社 朱とんぼフライング
春山 真
春山 真
アトリエ・パセ 春山 雅美
春山 孝
春山 進一
山崎 靖代
株式会社 あおやぎ 青柳 茂雄
新井技建 新井 敏夫
小山 栄治
田上 誠
原島 芳嗣
すぎ喜 須崎 信義
二俣尾診療所 馬場 潤
佐野板金 新井 賢二
青梅市消防団 第五分団 第三部
沢田 ランドリー
SHI デンタル クリニック
サワダ STB 株式会社
代表取締役 澤田 均
株式会社 酒井組
代表取締役 酒井 政修
澤田 秀夫
馬場 医院 馬場 誠
武田 商店 武田 清
本間 正行
岩浪 勝二
大章建設 有限会社

株式会社 フクダ オイル
福田 博文
小林 運忠
小林 陽幸
高橋工芸株式会社
高橋 徹
玉堂美術館
特別養護老人ホーム
喜久松苑
福田 昌弘
福田 道徳
杉田 功
北村 勉
そばと苜の里じやもの
鈴木 眞一
かじが 山下 慎悟
さぬきうどん 川島 秀行
株式会社 土屋建設
坂本 達彦
鮎神代屋 宗達
有限会社 ホンダ 本田 竜一
持田 祥太郎
伊藤 蘭 伊藤 武夫
株式会社 紅梅苑
新井 成幸
有限会社 シマヤ
青木 茂
有限会社 原島製畳 原島 二郎
森田 清一
福泉自動車株式会社
有限会社 アライ 荒井 邦彦
居酒屋 けんちゃん 福島 健一
株式会社 マルケイ
丸広建設株式会社
飯田 孝雄
東京機工土木株式会社
株式会社 東新商会
代表取締役 山下 亨

武 州 み た け

富田貞雄
株式会社清水製作所
代表取締役 清水浩久
野崎隆矩
津田直之
株式会社青木設備工業所
青木良正
青梅信用金庫 中町支店
支店長 篠田康司
株式会社コバヤシ工房
昭美堂 富樫 富昭
佐乃屋
株式会社釜屋
有限会社十字堂 榎本聰太郎
株式会社間坂屋呉服店
株式会社間坂屋紙店
高野清三郎
道味 川嶋 吉弘
有限会社金子ラジオ商会
金子貞子
株式会社食彩房 成木屋
有限会社本宿屋あいざき
青梅信用金庫
根岸屋三代目 根岸利安
田中工業株式会社 田中康文
山中歯科医院 山中 治
株式会社成和印刷 木崎秀雄
株式会社りそな銀行東青梅支店
支店長 平岩光顕
ゆう企画
志村電設株式会社 志村 実
株式会社武藤一級建築士設計事務所
宮田 明
小峰事務所 小峰フサエ
奥多摩建設工業株式会社
木村 秀樹
西和商事株式会社 小野精司
有限会社イワナミ 岩浪陽三

株式会社青梅不動産
有限会社オリエンタープライス
清水洋邦
株式会社三愛
代表取締役 原嶋和利
ASA河辺北部・ASA河辺
森内幹夫
西武信用金庫 河辺支店
J・シニール 島崎 忠
濱中 教孝
小さなはなやさん 中村敏夫
ひのき茶屋 小山 君男
河辺 芳弘
河邊 文彦
株式会社コヤマ
有限会社ヤマカワ 川杉 彰一
川英織物 株式会社
代表取締役 川杉 英生
常盤 三男
株式会社浦野建築
代表取締役 浦野 正美
美容室サニー 小澤 福
末広郵便局長 河辺 文勇
株式会社村尾組
代表取締役 村尾 浩代
株式会社梅田商事
代表取締役 梅田 重利
伊八産業株式会社 伊藤博元
有限会社カスミホケン
株式会社若林商店 若林鴻志
株式会社せきづか 関塚博美
株式会社荒井電業社
代表取締役 荒井 成典
株式会社サンワ 金本現祥
有限会社イイダ・マシニール
飯田虎三郎
青木労務管理事務所
青木倫章

株式会社関塚商店
関塚裕巳
谷治 博史
有限会社きれ屋 安藤 論
木住野防災 木住野 忠
株式会社松田計装工業 渡辺 一
株式会社西多摩新聞社
株式会社きしの防災
代表取締役 佐藤 剛伸
株式会社塩田組
有限会社みずほ観光
滝島由樹
有限会社桂ファーム 栗原桂一
有限会社佐藤コンクリート工業
代表取締役 佐藤 一秀
共立興業株式会社
町田憲治
特別養護老人ホーム杜の園
森谷修三
岩蔵温泉司翠館 石川卓男
株式会社彩の柳
荒井 文雄
社会福祉法人武尊会
介護老人福祉施設九十九園
有限会社久保田自動車
有限会社成康工務店
中村 法久
青梅新興株式会社
代表取締役 小村 建
株式会社精興社
株式会社 豊富士
数泰工業株式会社
代表取締役 数野 國明
小澤 佑一
有限会社吉川石材店
有限会社三河屋
岩渕建築事務所
宮野 良一

青柳 義雄
伊東 淑夫
青木 一郎
所 宏和
青木 孝
須崎 博行
福島 義則
青木 正明
藤野 國基
市川 満
谷合 哲二
うつばや荘
神田 忠良
駒鳥 売店
旅荘 靱矢
登奈利荘
鈴木 勝二
片柳 智光
杉浦 岳志
五十嵐 守
能保 利
原島 莊
富士峰軒
鈴木 芳二・洋子
鈴木 貴大・梢子
松本 シゲ子
佐々木 重彦
長谷川 典子
東馬場
馬場 佳世子
嶺雲 莊
静山 莊
御岳 山莊
金井 美樹
金井 あゆ
金井 友香
金井 仁
小森 幸太

憩山 莊
高名 莊
丸山 莊
服部 一喜
宝亭支店
秋山 美奈子
齋藤 しげ
工藤 崇寛
蔵屋
宝寿閣
片柳 紘子
山本 円
駒鳥 山莊
千本屋
野島 光伸
有限会社野島グループ
野島 光伸
野島 重好
小糸 新五郎
小糸 美智子
片柳 莊
阿部 睦章
亀屋
アキル電化
宝亭本店
町久保田
寿屋
丸山 莊
藤本 莊
片柳 麻姫
麻知 家
山香 莊
小高 義行
西北 島
北島 泰年
青木 勝
天野 光紘
下田 利夫

灯籠奉納

本年より境内整備の一環として「灯籠奉納」を受付ております。早速多くの方にご奉納いただき、随神門下に四基建立させていただきました。厚く御礼申し上げます。

一基 奉納者

株式会社丸井紙店

代表取締役 有泉誠一

川崎市馬絹講 田邊邦夫

(一万元以上順不同・敬称略)

大蔵本村講中

講元 安藤芳彦

株式会社喜丸

佐々木洋一

銀座ダックスダックス

巳作 和恵

三箇龍仁

不二之会 奥井恵子

三橋鉄雄

三橋みゆき

森 正一

「想像された狼たち」

メンバー一同

八王子 根付中野講中

三箇愛沙

神山勘次

神山茂子

神山宏美

神山由香

神山友和

有限会社サンベアー

進藤喜一

市川 実

石段奉納



入間郡三芳町

林 宗治

中村治幸

田村賢治

青木孝夫

早川忠男

富岡 誠

(順不同・敬称略)

奉納

平成三十年二月一日

平成三十年八月三十一日

(一万元以上順不同・敬称略)

大星教会 白根真澄

S・H・デンタルクリニック

大泉辛酉講 加藤友久

木下 幸章

酒井靖夫

瀧 柱郎

江上オート 江上竜太

渡邊真理

大久保雄二

(株)Vessel

大久保貴惟

(株)総合内装ストリート

山下伸司

宮崎太朗

大口 眞

長谷川弘子

金子和美

(株)夕月 清水淳子

藤本留美子

高瀬講中 小野源一

野口綾香

中川 瑠子

石川 敏夫

(株)スベスシップ

梅原英明

中村浩義

濱中満江

清水永一

小山義雄

加藤真義

成田八重子

馬場克己

太々神楽奏上

近年太々神楽奏上が少なくなっております。太々神楽はどなたでも奏上いただくことが出来ます。是非、太々神楽を奏上されまよう、皆様のお申込をお待ち申し上げます。

平成三十年二月一日

平成三十年八月三十一日

青梅市

川崎市

川崎市

川崎市

横浜市

大田区

飯能市

板橋区

青梅市役所企画政策課

馬絹講中

菅北浦講中

平講中

菅田南町講中

六郷参拝講中

一丁目永代御嶽講中

東京都神社庁

板橋区支部



一般公開日程

神楽と雅楽の一般公開(神楽殿)

十月八日(月) 十一時開演

夜神楽(神楽殿・夜八時開演)

十月二十八日(日)

十一月二十五日(日)

〔連載〕 武蔵御嶽神社宝物シリーズ 28
「桐紋 鍍金長覆輪太刀鞘残欠」

日本風俗史学会 会員 齋藤 愼一
 前青梅市文化財保護審議会会長

鞘口

佩表
はきおもて

ここで棟方の覆輪折損

佩裏
はきうら

一の足

棟方の覆輪

二の足（この下で地板を接合する）

刃方の覆輪

この辺に貴金物がくる位置

鞘口（金物欠失）

本シリーズ11「三鱗紋兵庫鉾太刀の帯取金物」では鎌倉時代の長覆輪太刀残欠の帯取金物二点の考察から、この太刀は蒙古襲来の際、鎌倉幕府奉納の祈願用に製作の太刀であるとの報告をいたしました。二点の各々の寸法や、彫技の相異から、二振分の太刀の可能性もあり、祈願は二度あったかもしれません。注目すべきは、祈願用の奉納太刀なので形状は一応立派ですが、粗製で実用にならない製作という点です。丁度生きた馬の代わりに、絵馬を奉納するのと同じです。遺例は稀少なので注目されるのです。御嶽の三鱗紋兵庫鉾太刀と同じ意匠の帯取金物の長覆輪太刀が埼玉県浦和市の氷川女体神社にもあり、重要美術品指定で、御嶽神社の奉納用に作られた在りし日の三鱗紋（長覆輪）太刀を偲ぶことができます。シリーズ11の伊藤博司氏の復元画は、氷川女体神社の太刀に依ったものです。絵にすると立派なのですが、「柄」などは地板もなく、木地に金箔を貼り、刀身は実用にならないし、鞘の地板なども他からの転用材で彫技もあらわいのです。しかし、氷川女体神社や御嶽権現が武蔵国の国司（守護兼帯）であった鎌倉幕府の執権北条氏の祈願を大事件にあたっ

てうける程の社格を、鎌倉時代に有していた可能性を示唆するに十分な歴史資料といえます。また神意にかなう格式の太刀とは如何様のものであったか、ということも伝えます。

三鱗紋太刀が執権北条家と関わりを伝えるように、「桐紋」（「五七桐の臺（花）紋」。以下桐紋）の「鍍金長覆輪太刀残欠」は室町幕府の將軍や関東（鎌倉）府の公方の紋所であることにおいて、室町時代も同じ社格の御嶽権現であったことを伝えます。最古の紋帳で、文明二年（一四七〇）頃成立の「見聞諸家紋」にも桐紋を描き、足利氏の紋とあります。

表側（佩表）に五個、裏側（佩裏）に七個も、地板や帯金に残された桐紋を念頭に、大半部分を欠失、大破した「桐紋 鍍金長覆輪太刀」の細部を観察、復原してみよう。

鞘全体に、大破。佩表の地板は、鞘の半分で折損、欠失。佩裏は地板が貴金物辺りまで残りますが、後方の木鞘と覆輪・地板・貴金物・石突を欠失します。鞘口金物も欠失して、辛うじて一の足と二の足のみで残った地板と覆輪、芯の木鞘をまとめている状態ですが、旧状を想定できるのは貴重です。鞘口金物が欠失なので、一の足を鞘口の方へ移動して現状を保つわけです。鞘口の縦径（高さ）2.7cm、横径（幅）1.1cm、木鞘の横径0.7cmくらい。厚さ0.3cm弱の木刀の刀身が詰められています。小さな鞘口寸法は、復原推定6.0cmという鞘の長さに対応します。古い奉納用太刀は小形でまきちんと作る例もあり

りますが、御嶽のこの太刀は年代の下降と制作の粗放さを感じます。

二の足の金物下では地板が接合されています。この部分は鍍金が旧状の光を失わず鮮やかに輝き、地板の切放し、接合の仕様が観察できます。かなり粗雑です。二の足はゆるんでいて後方へ移動可能な状態です。大破しているのに構造を観察できるのは貴重です。従って二の足は本来の位置にあるわけですから、原位置を動いたのは一の足ということになります。

御嶽の重文指定の「鍍金長覆輪太刀」と同じく奉納用としてこの太刀も、一、二の足の金物は簡略な帯金である点は注目されます。一の足の旧位置は、少なくとも2.0cm程後方へ移動した辺りです。二の足との内側の間隔は8.0cm位でしょう。なお一の足と鞘口の間には桐紋を配する余裕はないと思います。こうした太刀を佩くと表側になる面（側）を「佩表」といい、現状で32.3cm程、佩裏は40cm残ります。なお、二の足より後方の覆輪は棟方に7.0cmのみ残ります。切放しの帯金の「一の足」の幅は、棟方で2.2cm、刃方で2.3cm、高は前方で3.0cm、後方で2.8cm、二の足で幅2.2cmと2.3cm、高2.6cmと2.5cm位で、足は刃方に広めに、鞘は後方へ細めてゆく傾向を示します。一・二の足には桐紋を彫りつけます。

桐紋は、一・二の足の間に二個、二の足と欠失した「貴金物」の間に三個「貴金物」と鎧（石突）金物との間に三個あったと推定します。佩表に残る桐紋三個の



二の足の桐紋 (拡大)

鞘口の正面

地板は、二の足縁から24.5cmのこので、二の足から「貴金物」まで23cmの間隔だったと思います。「貴金物」から「鑑」先まで20cm程と推定して、鞘は全長60cm余りと想像できます。「柄」を20cmとして全長80cmと小ぶりなのは奉納用だからです。柄も当然覆輪で、目貫金物は高肉彫りの桐紋だと思います。春日大社には足利氏奉納と伝える桐紋の「金装花押散兵庫鋳太刀」があります。桐紋は、春日大社の足利氏奉納太刀の金物、また三代將軍義満の袈裟や法服の紋様や、十代將軍義尚の出陣影の直垂の紋様に描かれ、永禄三(一五六〇)年、十三代將軍義輝より毛利氏が拝領の赤地錦直垂に意匠されています。また永禄四(一五六二)年に三好氏と松永氏に桐紋使用を許可しています。関東公方足利持氏以来の公方家の年中行事を記した『殿中以下年中行事』にも公方が桐紋の直垂着用の記事がみえます。

この太刀の記録は大正一四(一九二五)年刊行の「東京府史蹟名勝天然記念物調査報告書 第三冊」の「三田村御嶽神社」の項で、部分写真を揚げ「帯金物に桐紋を刻せるものは、足利將軍家より奉納せる長覆輪桐紋太刀と称せらるるもの云々」の記述が初出ですが貴重です。それ以前の御嶽神社宝物目録にないのは、刀身が木刀であつたからでしょう。小さめで、刀身が木で、簡略化が意匠や構造に及び、製作は粗雑でも足利將軍家奉納の伝承があつたのではないのでしょうか。さてこの太刀の奉納の年代は多分、永享五(一四二三)年代、京都の室町幕府の六代足利義教と対立して自滅した関東

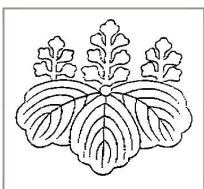
公方の足利持氏の「永享の乱」に先立つ神仏への祈願の折のものではないでしょうか。永享五年三月三日、持氏はまず鶴岡八幡宮寺に「御嶽版(立川普濟寺版)」の「五部大乘経」の未刊分六〇巻を補写して、全二百巻を一揃として奉納します。「五部大乘経」は「保元物語」で崇徳上皇が魔道に回向したともある経典です。翌六年三月十八日には「五部大乘経」と同じく持氏は上杉憲直を奉行として「鶴岡八幡宮寺」へ「大勝金剛尊像」を造立奉納、持氏の血書の願文が残り、「武運長久・子孫繁栄」「殊者攘夷咀怨敵(殊には呪詛の怨敵を攘い)」と祈っています。持氏は結局敗北、鎌倉の永安寺で永享十一年二月一日自害し、「結城合戦絵巻」(※1)に関東公方四代足利持氏が「桐紋」の赤地金襴の直垂姿で描かれているのは印象深いものがあります。祈願の奉行だつた上杉憲直は早く、永享一〇年一月六日、称名寺で自害します。

なお御嶽の桐紋鍍金長覆輪太刀の、一、二の足金物上につく鉄鍍金は小さくて、兵庫鋳の取り付け無理なので、時代の下降もあるから、黒草の革の足緒(帯を通す縄)になつていたと思います。奉納用ですから「一の足緒」に三つ、「二の足緒」に四つ、鍍銀の「七つ金」がついたかもしれません。「兵庫鋳」ではなかったと思います。

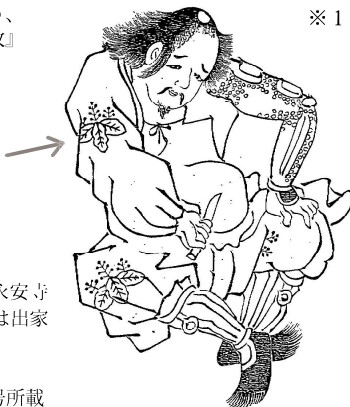
大破し粗製といえども、権力者の中世寺社へ奉納の格式ある「鍍金長覆輪太刀」の形式を今に伝えた最後の遺物資料だと思います。

また、中世の末期まで鎌倉幕府に引き続き、鎌倉(関東)府の公方の尊崇をう

下：応仁・文明年代成立という、武家の家紋集『見聞諸家紋』の足利家の桐紋



右：『結城合戦絵巻』の鎌倉・永安寺での足利持氏の最後。頭髪は出家剃髪の際。



二図とも『國華』90号・91号所載川崎千虎「本邦武装沿革考」による

※1

計測・調査では、私と共に山岸素夫先生門下の学友西岡文夫氏、また青梅市教育委員会・文化課長の北村和寛氏、当社権禰宜天野宣子氏の協力を深謝します。また嗣永芳照氏「立川普濟寺版について」(立川市史研究 第七冊)昭和四二年・市史編纂委員会編 所収)の学恩を得ました。

けていたという御嶽権現の神格をも実感させます。あわせて、四代公方足利持氏が貞治二年(一三六三)から応永七年(一四〇〇)まで御嶽寺住僧たちが版行した御嶽版経未完分を補写して、二百巻の「五部大乘経」として氏神「鶴岡八幡宮寺」に奉納したことも、御嶽との関わりを示唆するものがあります。

神社の杜(五十一)

片柳 茂生

「ん?ケヤキが変だぞ」

御岳山の表玄関、御嶽駅の目の前に流れる多摩川。水の流れと岩の織り成す風景、それに川岸を彩る樹々、御岳渓谷は四季を通して訪れる観光客の目を和ませてくれる美しい所です。今回は、この渓谷の河岸に数多く生えている櫟についてお話ししましょう。

櫟は神社の境内や旧家の屋敷林として植えられており、青梅街道や五日市街道沿いにある樹の中では、公の保存樹に指定されているものも多いですね。また街路樹としても植えられており、誰もが知っている身近な樹といってもよいでしょう。御岳渓谷に生えているその櫟に今異変が起きているのです。

昨年夏の夏のことでした。八月なのに渓谷のケヤキの葉が茶色になっているのに気がつきました。樹木の中でも紅葉

するのが早い方の種ではありますが、それにしても早すぎますし、ましてや落葉するには早すぎます。そんな状態の木は一本や二本ではではなく、渓谷沿いに立つ櫟のほとんどがこの状態なのです。天候に異変はあったか? いやいや櫟以外の樹木は普通です。櫟だけ一斉に枯れちゃったのかと思います。



イラスト：紺野美織

ました。昨年枯れたと思った櫟も普段通り芽吹いています。ところが異変は続いていたようです。七月頃、大雨の後瀧本あたりの道沿いにたくさん櫟の枯れ葉が溜まっているのを見ましたが、その時は「なんで」程度にしか思っていまませんでした。そして八月末になると状況は一変。昨年と同じように茶色になった樹が目立ちます。これは深刻な状況だと思ってビクターセンターに聞いてみました。

実はこの現象、十年ほど前から見られていたようです。原因はヤノナミガタチビタマムシという甲虫による被害でした。この虫の被害にあった樹は真夏であつても自ら落葉を落として我が身を守るようです。時には一年に二回も三回も落葉と季節外れの芽吹きを繰り返すこともあり、そのため衰弱して立ち枯れしてしまう樹もあるようです。

最初に確認されたのは日向和田・梅郷・二俣尾地区の多摩川沿いだそうですが、今ではその範囲を広げ、軍畑大橋を中心に流域約十六キロまでになり、埼玉県の名栗渓谷にも被害が及んでいるようです。実はこの範囲多摩川の本流だけにとどまらず支流にも及んでおり、今年はケーブルカー滝本駅近くでも見られるようになってしまいました。

御岳山には国の天然記念物「神代櫟」があります。樹齢千年と言われるこの櫟も近年樹勢が弱くなっているように見受けられます。こんな状態のところに虫がついてしまったらと思うと・・・祓い給へ清め給へ・・・

あ と が き

今年の夏は台風・大雨・猛暑と異常気象に見舞われた夏でした。御岳山でも三十度を越す日が続き、青梅では観測史上初の四十度を超す高温となりました。西日本豪雨や台風では大変な被害に合われた方も多く、皆様には心よりお見舞い申し上げます。

またこの度発生した北海道胆振東部地震により、被災された皆様、そのご家族様におかれましては心よりお見舞い申し上げます。そして被災地等におきまして、救援や復旧作業などで尽力されている方々に対し、深く敬意を表するとともに、被災地の皆様の安全と一日も早い復旧を心よりお祈り申し上げます。

さて、三年ぶりに伝法が行われ、三名の新メンバーを迎えることができ大変嬉しい限りです。若い三人共々宜しくお願いします。上長淵中里御嶽講中元講元新海博司様、齋藤慎一先生、写真家鶴巻育子様、玉稿を有難うございました。

平成三十年 十月 一日発行

〔年二回発行・非売品〕

編集 武蔵御嶽神社

TEL 〇四二八(七八)八五〇〇

FAX 〇四二八(七八)九七四二

<http://www.musashimitakejinja.jp/>

印刷 (株)成和印刷